

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290900156		
法人名	ルミナス株式会社		
事業所名	グループホームひかり千葉船橋		
所在地	千葉県船橋市東船橋2-17-17		
自己評価作成日	平成22年4月23日	評価結果市町村受理日	平成22年5月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	東京都港区台場1-5-6-1307		
訪問調査日	平成22年5月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

JR総武線「東船橋」駅下車、徒歩4分の閑静な住宅街に当ホームがございます。当ホームは運営理念に基づき「生活空間作り」、「ケアサービス」、「運営体制」等の質の維持・向上」に日々邁進しております。具体的に利用者の生活ですが、ほぼ毎月外食を行事として取り入れたり、日々のお散歩の中で買い物や公園などに行き、スタッフとご利用者様のふれあいの時間を多く作り、互いの信頼・絆を深めております。当ホームとしては、ご利用者様とその家族の豊かな人生を応援するパートナーであり続けたいと願っております。また健康面については、当ホームの隣が内科のクリニックになっており、毎週往診に来て頂いている点や24時間の緊急対応もして頂いておりますので、とても安心感のある生活を送っていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR東船橋駅から徒歩4分の、訪問や買い物に便利な所に立地したホームです。建物はゆったりとしており、隣に内科クリニック、デイサービスの施設があり、それぞれ経営は異なりますが、種々連携をとって環境を活かしています。ホームは医療面に力を入れており、医師の毎週の往診と24時間緊急対応体制がとれており、歯科医も2週間に1回訪問するようになっています。このホームの良い点は、理念にも掲げています「一人ひとりが地域の中で人間の尊厳を大切に生活を送れるように支援する」事に努めていることです。実際職員は利用者のペースを尊重し、家族が頻繁に外出、外泊に連れ出したり、知人が自由に訪問しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念、目的を施設内に掲示	理念に、「認知症であっても、一人一人が地域の中で人間の尊厳を大切に生活を送れるよう支援する」を掲げています。地域密着型サービス施設であるホームとして妥当です。ただ、全職員で共有出来ているようには思えない部分もあります。	管理者、全職員で理念を日頃から話し合い、共有し、実践することが望まれます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流はまだ確立できていない	現在、自治会に加入する準備をしています。毎日の散歩時には、近所の人と挨拶を交わしたり、傾聴ボランティアを受け入れたりしています。また、近くの幼稚園と交流しています。	自治会に加入し、積極的に行事に参加すること、その際、地域に貢献する行事(草取り、ごみ拾い等)にも参加すること、更に、ホーム祭り等を開催し、地域に参加を呼び掛ける事が望まれます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域へのこちらからの発信はまだ出ていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議がまだ行なえていない	現在地域包括支援センター、自治会長、家族に声をかけ、6月に運営推進会議を開催する準備を進めています。	会議は、関係者が出席しやすいよう日程に配慮して、定期的に年数回開催し、単なる現況報告に止まらず、外部評価結果と改善状況や直面する課題等に付いて、運営に役立つ意見交換を行うことが望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と密に連絡は取れていない	市担当には、必要な都度報告、相談しています。現在、地域包括支援センターに運営推進会議への参加を依頼しており、また、年数回開催されるグループホーム連絡協議会に出席して行政との接点を増やすことも検討しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の入社時研修として左記項目の内容について話をしている	身体拘束排除の職員宣言を皆で作成し、日頃から共有、実践しています。また、随時社内研修、外部研修で、職員は学習しています。現在玄関には鈴をつけ、日中は鍵をかけないようにしています。夜間は、防犯上鍵をかけています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に利用者の変化にスタッフ全員で注意し、虐待防止の意識を徹底している。関連法についての学ぶ機会には特に設けてはいない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会など特に設けてはいない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行なっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設けている	利用者からは日常、家族からは来訪時や電話連絡時に意見・要望を聴いて運営に反映するように努めています。意見箱を設けていますが、殆ど利用されていない状況です。なお、相談対応が職員によって異なるとの意見が家族から出ています。	利用者毎に家族との連絡ノートを作ったり、事業所独自のアンケートの実施等工夫し、家族の相談への対応については、職員会議で話し合い、統一を図るよう努めることが望まれます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回各ユニットにて会議を開催している	職員からは、日頃の就業時や月1回の職員会議で意見を聴いて、運営に反映しています。実施例としては、記録方法の改善、利用者対応の統一、ワゴン車乗降用のステップ台の準備等があります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と事業所のパイプ役としてマネージャーを置き、各職員の状況を代表者が把握できる体制を作っている。また、昇給により努力や意欲に報いる体制も作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内から外への研修参加は行なっているが、外からの受け入れについて実績はありません。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現状特にネットワーク作りや勉強会等は行なえておりません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面接を行ない、ご家族からの情報だけでなく直接ご本人からも要望や不安な点などを聞くようになっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時や詳細説明、面談、契約と利用にいたるまでに、複数回ご家族にお会いする機会があるので、細かい部分なども遠慮なく言っていただけるような関係を築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当事業所への入居にこだわらず、相談者に最も適していると考えられるサービスや施設の案内をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者を人生の先輩として尊敬し、家事や洗濯などを一緒に行ないつつ色々介護者の分からない点などを教えて頂きながら日々生活しております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡を密にすることにより情報を共有し、協力関係を築いております。また月に最低一回は近況報告をご家族宛に送っております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人に自由に面会に来て頂いたり、手紙・電話などで連絡を取り合っています。	利用者と馴染みの家族の友人や知人が訪ねて来て、和やかなひと時を過ごしています。面会に来た家族と外食やお墓参りに出かける利用者もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入ることにより、利用者同士のコミュニケーションを円滑に行なうことのほか、一人で居る利用者にはスタッフが声掛けし、他利用者との接点を作っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状等のやり取りはあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り本人の生活を尊重している。急な買い物や外出の希望にも対応しております。	コミュニケーションが取りにくい利用者とは、普段接して分かる表情やしぐさから、意向の把握に努めています。喫煙希望者には玄関の外で吸って貰い、職員が付き添い安全性に配慮しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	調査票を作成し、入居前に本人、ご家族から出来るだけ詳しく伺っております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人のアセスメント表やケース記録を作り総合的に把握できるよう努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各ユニットにてケア会議を行ない、ケアプランに反映させております。	計画作成担当者を中心に、利用者や家族の要望を尊重し、医師や看護師の意見を反映して職員と共に作成しています。3ヶ月毎の定期的見直しと、利用者が退院になった時や、介護度が変更になった時などに随時の見直しがされています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録と作成したケアプランの進捗をケア会議で議論し、見直しなどを行っております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り本人やご家族のニーズに合わせた対応をしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティアの利用をしております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接の内科クリニックに週に一度往診に来ていただいております。24時間のオンコール体制がとれております。また入居前からのかかりつけ医がある場合は、継続して受診できるよう支援しております。	入所前からのかかりつけ医がいる利用者には、通院に原則として家族が付き添っています。歯科の訪問診療は2週間に1度で、必要に応じて虫歯の治療や義歯の調整を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	上記クリニックの週に1回の往診時に相談を行っており、往診時以外にも気軽に相談できる関係が築けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人の状態などをご家族、また病院と相談を行ないスムーズに退院出来るよう努めております。病院関係者との関係作りは現状特には出来ておりません。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診時やフロア会議で話し合いの機会を持ち、必要であればご家族と相談し医療機関に受診していただいております。	ホームで出来る範囲のケアは行われています。しかし、利用者に医療行為が常時必要になった時には、家族に病院や介護施設を紹介するようにしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は特に行なっておりません。急変や事故発生時は社内に掲示しておりますフローを参照するよう職員には指導しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員避難方法が徹底出来てはおりません。また地域との協力体制もとれておりません。	年2回、消防自主訓練を実施しています。火災警報器、熱探知器、煙探知器、消火器が設置されており、事務所には、緊急時対応表、連絡先が掲示されています。	消防署を呼んだ訓練や夜間想定自主訓練を行うこと、夜間想定の場合は近隣の職員のみならず近隣の方々への声かけが、更に、スプリンクラーの早期設置と3日分の備蓄が望ましいと思われます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的に言葉遣いは敬語を使っての対応をしており、ご利用者様が出来る事はご自身でやっていただくことで本人のやる気・プライドを損なわないよう配慮しております。	トイレ誘導の声かけは、他の利用者に気付かれないように心がけています。また、入浴後は早目にタオルをかけるなど、羞恥心に配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクなどを行なう際は、まず本人に何をやるかを説明した上で判断を仰ぎながら参加を促しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間、起床時間など出来るだけ本人のペースに合わせて提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用しているが、希望があれば近所の美容院まで付き添いを行なっております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いを把握し個人に合わせた食事を提供し、準備、後片付けも本人の能力を考慮しながら手伝って頂いております。	食材は業者が栄養バランスを考えた献立により納入しており、職員はご飯、味噌汁、時により一品追加料理をしています。楽しく食べられるように、相性を考えた席の配置にし、茶碗等は馴染みのものを持参、必要な利用者には刻み食対応等もしています。	コミュニケーションが取れる利用者が多いホームなので、食べたい好みの副食などを聞き、できる範囲で献立や外食に取り入れる工夫が望まれます。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量チェックは業務として行なっております。食べる量なども本人の体調などで増減したりするなどの対応を行なっております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	実施しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各入居者の排泄記録をとる事により、パターンや習慣を把握したケアを実施しております。	排泄パターンを把握することにより、大幅に失禁が減りました。紙パンツから普通のパンツに向上したケースもあり、本人の自信につながる支援が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物への注意を行なうと共に、かかりつけ医から下剤等を処方してもらい便秘予防に取り組んでおります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴の準備をし、声掛けを行っております。可能な限り本人の希望の時間で案内できるように務めています。	原則として週3回入浴できるように支援しています。健康面に問題が生じた場合は、清拭に替えたり翌日に延ばしています。季節により、菖蒲湯やゆず湯にし、入浴が楽しみになるように努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具や室温に注意し良眠出来る様に支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を理解しつつケアを行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の好きなレクを提供し、メリハリのある生活が支援出来るように支援しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、外へ出る行事など、外へ出る機会を作っております。	散歩は、天気の良い日は毎日、テレビ体操をした後の午前中約20～30分、出かけています。また、利用者の要望に応じて近くのコンビニやスーパーへ買い物に行ったり、車で初詣、花見、納涼祭、葛西臨海公園、谷津バラ園などへの遠出を楽しんでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に応じ財布に小額ではありますが、自己管理をされている利用者もおられます。また希望があれば買い物への付き添いを行っております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については家族の意向を考慮しつつ行っております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光はカーテンなどで調整し、テレビの音なども不快にならないように配慮しております。また居間は季節の飾りつけなどをし、季節感を出せるように工夫しております。	全体的に清潔で、ゆったりとしており、廊下の空間には、飾り、置物が置かれ、中庭もあり、利用者が快適に過ごせるように配慮されています。居間は広くて日当たりがよく、季節の花が飾られ、壁には季節を伝える利用者と職員合作の折紙絵や、手製のカレンダーがあり、季節感、生活感を感じます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファなどを配置し、休憩場所や談話できる場所として利用していただいております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具等を持参していただき、利用者また家族と相談の上、配置しております。	利用者は、馴染みの物(夜具、小ダンス、写真、人形、置物、茶碗、箸、湯のみ等)を部屋に持ち込み、自分の家のように過ごしています。入所時や、衣替え時には、家族に配置をお願いする等の工夫もしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の能力に合わせ家具の配置や物の置き場に注意することや、各部屋に表札を付ける事によりご本人が自立した生活が送れるよう工夫しております。		